

市の環境活動を報告します！

市では、施策事業の環境負荷の低減等を図るため、ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証取得を受け、環境保全・環境負荷低減活動に取り組んでいます。

野洲市の ISO14001 の登録内容	
活動範囲	野洲市が実施する行政サービスおよび事務活動
関連事業所	市役所（本庁舎、分庁舎）、地域総合センター、有隣館・児童館、健康福祉センター、図書館、学校給食センター、歴史民俗博物館、保育園、幼稚園、ふれあい教育相談センター



平成 20 年度の主な活動

環境に配慮した事業の推進

市内じゅんかんバスや家庭用ごみ収集車の一部で、使用済みてんぷら油から作られた燃料（BDF）の利用を開始しました。

里山、川、びわ湖、林などをフィールドにした自然体験学習や、生活の中でできるごみの減量や CO₂ 削減の取り組みを市民と協働で実施しました。公共工事で発生する建設副産物の再利用を行うほか、低騒音・低振動型の工事機械の使用に努めました。

BDF を利用したごみ収集車



幼稚園・保育園での取り組み

「我が家のエコアイデア」として寄せられた各家庭での工夫を、「エコつうしん」を通じて他の家庭にも伝えました。

園庭の鉢植えや、散歩の際に摘んだ草花を手作りで卒園式の飾りに使用しました。

環境意識の啓発と支援

建設工事登録業者の入札参加資格審査の際に、ISO 取得事業所には一定の加算評価を行いました。

家庭で不要となった絵本を窓口で回収し、希望する人に提供しました。

エコオフィス項目 実績値

負荷低減項目	H 20 実績値	H17 との比較	評価
紙使用量	11,182,996 枚	+ 7.4%	×
ガソリン使用量	39,967	- 8.5%	
軽油使用量	9,820	- 22.7%	
灯油使用量	55,962	- 21.8%	
ガス使用量	5,658 m ³	- 18.3%	
水道使用量	25,253 m ³	- 14.1%	
電気使用量	4,187,873 kwh	+ 1.2%	×

施設の統合・改築のあった給食センターは除く。

エコオフィス項目とは、日常業務において環境負荷の低減を行うべき項目です。

今後も、地域全体で環境に配慮した行動・事業活動が推進していくよう、市は積極的に環境に配慮した行政サービスに取り組んでいきます。

住宅用太陽光発電システム 設置補助制度の見直しにより、 現行制度の交付申請受付 は 10 月 31 日で終了します！

市では、現在、地球温暖化抑制とエネルギーの効率的な利用促進を目的に、住宅に太陽光発電システムを設置する人に対して補助を行っています。

一方で、温室効果ガスの排出量は増加傾向にあり、一般家庭では 1990 年比で 41.2% もの CO₂ 排出量が増加（2007 年度確定数値）しています。この CO₂ 排出量を削減するためには、太陽光発電など自然エネルギーの導入だけでなく、省エネルギーの実践が必要不可欠です。そこで市では、現行制度の交付申請の受付を 10 月 31 日で終了し、新たに断熱改修など住宅の省エネルギー化を含めた補助制度を検討しています。

10 月 31 日までに、補助予算枠に達した場合は、その時点で受付を終了します。

申し込み・問い合わせ...環境課 589 - 6431、勳589 - 5069

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

(59)

☎587-4410、Fax587-4413

休館日 / 月曜日

館内燻蒸に伴う臨時休館 / 9月1日 ~ 4日

資料の燻蒸(殺虫作業)の希望者は事前にご相談ください。大きさや内容によっては受け入れできない場合があります。搬入、搬出は所有者でお願いします。

夏期テーマ展「女性史の発見 資料から見た女

性とくらし」 / 8月30日 まで

女性史講演会「近江の女の歴史 婦人会記録に見る戦争と女性」 / 8月1日 午後2時~4時
講師...京楽真帆子さん(滋賀県立大学教授)

ふおれすとフォトギャラリー(弥生の森写真展) / 9月30日 まで展示 作品募集中!

弥生の森・草木染め教室 / 8月16日 午後1時~3時

対象...どなたでも、20人 電話にて申込受付

講師...田中悦子さん(染織家)

参加費...ハンカチ1枚につき300円

古文書の箱

市内には多くの古文書が残っています。古文書は紙に書かれた記録類で、古いものは江戸時代以前に、新しいものは明治以降に作成されて、現在まで大切に受け継がれてきたものです。このような古文書はどのように伝えられてきたのでしょうか。

古文書はお寺や神社、自治会、個人など、さまざまな場所でき長く保管されてきました。古文書は作られた当時の書類ですので、作成された書類は、証拠として、また後々の参考にするために保管する必要があります。紙に書かれたものを保管するためには入れものが必要です。その入れものにはよく木箱や筆筒が使われました。

このような古文書を保管しておく箱には専用につくったものもありますが、まったく関係のない木箱を利用したものもあります。博物館で調査させていただいた市内の人は、古文書を入れる箱のひとつに、もともと火鉢の箱だったものを利用していました。

特に重要と考えられていた古文書は、1点だけで箱に収められていることもあります。現在博物館に展示している、検地帳という江戸時代の土地台帳を収納したものなどはそのひとつです。このような箱は、収納する帳面の大きさにあわせて作られています。

文書を収納する箱や筆筒はさまざまな大きさのものが



検地帳の箱

永原共有文書の箱



ありますが、大きなものは衣装筆筒などと同じ位の大きさのものもあります。写真の箱は、博物館に寄託されている永原共有文書の箱です。高さが45cm程で、古文書を収納する箱としてはよくある大きさのものです。この箱から何がわかるのでしょうか。

この箱の右側面には1855(安政2)年10月に

新調されたことが書かれ、左側面には村の会所で保管されていたことが書かれています。そして引き出しには鍵がついており、引き出しの左端には上から「書附錠」、「紙類」、「書類」と書いた紙を貼って、中のもので一目でわかるよう

にしています。このような鍵のついた箱には、所蔵者が古文書の中でも特に重要であると考えていたものを保管していることが多かったようです。この箱も博物館で預かりする前には「非常持出」と書いた紙が貼られていたもので、おそらくいざというときに持ち出すものが収められていたのでしょう。

このように、古文書を収めている箱は、昔の人たちがどのような古文書を重要と考えていたか、いかに大事に守り伝えてきたかを現代の私たちに教えてくれます。

(博物館調査員 吉川邦子)